

広告屋が見てきた もう一つの広島

2024.3.11 MON – 6.28 FRI

広島市公文書館

はじめに

みづま工房写真コレクションとは、昭和20(1945)年10月に水馬義輝氏が広島市で創業した広告代理店みづま工房が、その業務を通じて撮りためてきた、市内の街並みを中心とする写真約35万点ものコレクションです。

そこには、店舗のディスプレイに始まり、広島復興大博覧会などイベントの設営、フラワーフェスティバルをはじめとする祭りの企画など、広島街とともに歩んできた広告会社ならではの視点で写し取った写真の数々が収められています。

このたび、そのコレクションを広島の戦後の歩みをたどる歴史資料として活かしたいという思いから、当館に寄託されました。

本展は、寄託記念第一弾として昭和30年代の写真を中心に構成しています。写真を通じて、広島街がにぎわいを取り戻し、活気づいていく当時の熱気を感じていただくと幸いです。

※整理中のため、コレクション点数は概算です



1 本通りアーチ看板設置作業★
昭和34(1959)年



2 平和大通り★
昭和31(1956)年



3 平和大通り
昭和31(1956)年



4 相生通り原爆ドーム前★
昭和31(1956)年



5 相生橋電停★
昭和32(1957)年



6 本通商店街★
昭和33(1958)年4月



7 本通商店街
昭和34(1959)年8月

1 にぎわいを取り戻した街

平和大通りは、被爆の翌年に小町付近から整備が始まった。

2 小町から西を望む。三角屋根は日本バプテスト広島キリスト教会、その奥に国泰寺と白神社の屋根が見える。

3 同地点から東を撮影したと思われ、広島復活教会が写っている。供木運動が始まる前年で、比治山まで視界を遮るものがない。

4 現在はビルが立ち並ぶ相生通りでも、昭和30年代前半にはまだ原爆ドームの姿をしっかりと望むことができた。

5 「相生橋」電停は、現在では「原爆ドーム前」となっている。左端には、市民球場建設工事の予定地であることを伝える文字看板が見える。

6 本通り商店街を鯉城通り側(本通電停)から、7 商店街を中ほどまで進んだ辺りから東を望む。昭和29年に設置されたアーケードは翌年の大雪で崩壊した。この頃まだ再建されていないが、アーチ看板や横断幕がにぎやかだ。



8 歳末大売り出しの賑わい★
昭和37(1962)年12月



9 お正月セールスの福引★
昭和39(1964)年1月



10 歳末大売り出しの賑わい
昭和37(1962)年12月



11 中央通り★
昭和32(1957)年



12 中央通り
昭和36(1961)年頃



13 天満屋開店★
昭和30(1955)年10月



14 八丁堀の夜景
昭和35(1960)年頃



15 八丁堀交差点★
昭和34(1959)年2月



16 新天地劇場★
昭和33(1958)年頃



17 モスラ対ゴジラ★
昭和39(1964)年5月



18 広島アリーナ★
昭和39(1964)年8月

8・9 えびす講から年末年始にかけての大売り出しには、市内だけでなく県北などからも冬支度やお正月準備のために足を運んだ買い物客でにぎわった。毎年恒例の本通商店街の福引を楽しみにしていた人も多かったことだろう。

10 金座街南口付近。今はなきキリンビヤホールや令和2年に閉店した105年の老舗書店廣文館など懐かしい店名が見える。

11 中央通りから仏だん通りを望む。創業者が坂町出身であるサンスターのアーチ看板は、この頃数年設置されていたようだ。

12 中央通り東側を南向きに撮影。アーケードの下に間口の狭い商店が連なる。

13 昭和24年から営業していた中央百貨店が、29年天満屋の出資により「広島天満屋」となる。翌年10月1日、地下1階地上4階の新店舗を建設して新装オープン。中四国で初めてのエスカレーターなどの設備も話題となり、開店当日は30分ごとにシャッターを下ろして入場を制限するほどにぎわったという。31年、7階建てに増築し、正式に合併して「天満屋広島店」となった。屋上に立つロケット型のネオン塔は、福屋やトリスの樽型ネオン塔などとともに八丁堀の夜空を彩った。

映画は市民の娯楽として人気で、早くも被爆翌年2月の新聞に、施工中の映画館が7館、既存利用2館、新規4館が計画中和掲載されている。2月28日には太陽館、広島劇場の2館が当日封切りの広告を出している。15に写る八丁堀交差点の東洋座は23年3月に再建開業した。

17 職人が描く映画看板も多彩で、「モスラ対ゴジラ」では飛び出す怪獣たちが道行く人の目を引いた。

18 昭和29年に鷹匠町(現十日市町)に開場したアイススケート場、広島アリーナ。この年開催される東京オリンピックにあわせ新装オープンし、壁にもオリンピックにちなんだ看板を掲げている。



19 公衆電話ボックス
昭和31 (1956) 年頃

19 今ではほとんど見かけなくなった公衆電話ボックス（堺町土橋電停付近）。

2 華やかな祭りと商店街

広島まつりは、昭和27年、観光客を呼び込もうと広島市・広島商工会議所・中国新聞社・広島中央放送局（現 NHK 広島放送局）・広島市観光協会主催で始まった。さまざまに飾り付けた自動車やトラックによる広告パレードが市中



20 広島まつり 仮装行列★
昭和32 (1957) 年4月



21 広島まつり 広告オンパレード★
昭和32 (1957) 年4月

を走り、広島券番の芸者衆による「広島おどり」のステージや仮装行列などのパレードが、この祭りをきっかけにできた「広島音頭」に合わせて繁華街を練り歩いた。各商店街も景品付きの大売り出しなどで後押しした。ミス広島は22年から始まっていたが、その新旧交代がこの祭りに合わせて行われるようになり、新ミス広島がヘリコプターから会場の市民球場へ舞い降りるという大掛かりなパフォーマンスも行われた。春の広島風物詩であったこの祭りは、41年まで続いた。



22 広島まつり 花電車★
昭和32 (1957) 年4月



23 広島まつり ミス広島★
昭和38 (1963) 年4月

胡子神社は、慶長8 (1603) 年に吉田（現安芸高田市）の胡堂に祭られていたえびす神を現在の地に勧請したといわれている（諸説あり）。被爆当時、胡子神社の社殿も灰燼に帰したが、その年の胡子大祭の日にはバラックの仮社殿を建てて祭礼を守り続けたという。毎年11月18日から20日まで行われる胡子大祭は、えびす通り商店街を中心に誓文払いといわれる大売り出しや、明治34 (1901) 年の鎮座三百年祭を機に売り出されるようになったこまざらえ（熊手）をを求める人でにぎわい、「えびす講」「えべっさん」と呼ばれて親しまれている。



24 えびす講★
昭和32 (1957) 年11月



25 えびす講★
昭和38 (1963) 年11月

金座街の七夕まつりは、仙台七夕まつりを参考に、昭和34年から始まった。各店がそれぞれ趣向を凝らした飾りをつるし、どの店の飾りがいいか投票が行われた。



27 七夕まつり★
昭和36 (1961) 年頃



28 七夕まつり★
昭和38 (1963) 年7月

3 広島市民球場とさまざまな催し

カープは設立当初、観音の総合球場をホームグラウンドとしていたが、交通の便が悪かった。他球団の本拠地ではナイター設備を備えた球場が主流になり始めたこともあり、市内中心部にナイター球場が建設されることとなった。軌を一にするように紙屋町交差点付近にバスセンターを建設する



29 広島市民球場起工式の日★
昭和32 (1957) 年 2 月 22 日



30 広島市民球場建設予定地
昭和32 (1957) 年 2 月



31 建設中の広島市民球場★
昭和32 (1957) 年 6 月



32 広島市民球場落成★
昭和32 (1957) 年 7 月 22 日



33 広島市民球場落成★
昭和32 (1957) 年 7 月 22 日



34 広島市民球場落成★
昭和32 (1957) 年 7 月 22 日



35 オールスターゲーム
昭和37 (1962) 年 7 月 26 日



36 広島市民球場でプロレス★
昭和37 (1962) 年 4 月



37 ひろしま盆踊り大会★
昭和39 (1964) 年 8 月



38 広島中央卸売市場開設10周年記念★
昭和34 (1959) 年 4 月



39 建設機械展★
昭和32 (1957) 年 10 月

構想も持ち上がる。交通の便が確保できることもあり、球場建設地は紆余曲折があったものの、基町（現球場跡地）に決定した。30には建設工事の看板の横に被爆後も残った護国神社の鳥居が見える。

昭和32年2月22日児童文化会館南側で起工式が行われ、第1期工事が開始。5月には照明塔、6月にはスコアボードが立ち、わずか5カ月の工期で完成した。完工式前の7月15日から4日間行われた照明塔の点灯試験にも多くのファンが詰めかけ、外野スタンドが埋まった。22日は完工式に続いて南海とカープの2軍によるオープン戦が行われ、日が傾いた六回表、試合を中断して渡辺市長がピッチャーマウンドで照明塔のスイッチを入れた。スタンドの向こうに見える原爆ドームの姿とは対照的に、まばゆいばかりのカクテル光線に包まれて、地元球団の野球観戦に興じられる平和をかみしめた人も多かったことだろう。公式戦は24日の阪神戦から始まったが、新球場の緊張からか、1-15で大敗を喫した。それでも新球場効果は大きく、この年の観客動員数は前年の1.5倍に増加。増えた試合収入は選手補強にあて、後に監督となる森永勝也、古葉竹識らを獲得した。

35 球場開設5周年に行われたオールスターゲームの開会式では、スター選手たちが子どもたちと手をつないで入場し、風船とハトが大空を舞った。

イベントホールがあまりなかった時代、市民球場はさまざまな催しに利用された。

36 プロレスも何度か開催されており、人気レスラー力道山の試合に沸いた。リングサイドまで詰め寄せて食い入るように見つめる観客の熱気が伝わる。

37 ひろしま盆踊り大会もこの時期の恒例行事で、39年の大会では8月15、16日、民謡保存会など7団体が得意の踊りを披露した。人気歌手を招いてのステージもあった。呉市や岩国市など近郊の市町村が参加した年もあった。

38 中央卸売市場は戦後の食糧難の中、市民の食生活を安定させるには生鮮食料品の需給調整ができる市場施設が必要と、昭和24年、加古町の県庁跡地に全国10番目の総合市場として開場した。午前5時の開場予定が、4時前には川内村から牛車に積まれた大根が一番乗りし、近郊、他県からも野菜や果物、北海道のサケなど水産加工物、漬物などが続々と運び込まれたという。完成時の平面図には駐車場に加えて牛馬繋留所が設置されており、当時の交通事情を感じさせる。34年4月には開設10周年記念式典や全国有名商品展示会などに加え、ゆかりの業者や戦災孤児を招待して広島対南海の2軍戦が開催された。



40 広島復興大博覧会★
昭和33(1958)年3月

平和大通りもイベント会場として利用された。

39 平和大通り東詰で開催された建設機械展。建物や道路の建設、河川改修などに使われる重機がずらりと並ぶ。技術や経済の発展と豊かな未来を実感できる催しだったことだろう。



41 広島市農漁まつり★
昭和33(1958)年12月



42 下関-大阪間府県対抗駅伝★
昭和33(1958)年

40 広島復興大博覧会は、復興の現況、産業・観光の実情などを広く紹介するため、昭和33年4月1日～5月20日の50日間、平和記念公園、平和大通り、広島城の3会場で開催。原子力科学館やお菓子の国など多くのパビリオンが並び、約88万人の入場者が訪れた。



43 象のパレード★
昭和34(1959)年3月



44 木下大サーカス
昭和34(1959)年

平和記念館(現平和記念資料館東館)も、地元企業の商品展示会や入社式など、さまざまな催しに利用された。

41 広島市農漁まつりでは、農作物、果樹、水産物などの優秀品1800点などが出品された。

42 どこでも練習でき用具もいらぬ駅伝は、戦後いち早く復活し、昭和20年代の広島は駅伝王国といわれた。県庁前に設けられたゴール地点に多くの人が詰めかけて、人気のほどがうかがえる。この駅伝大会では36年に広島が優勝している。



45 大相撲広島準本場所★
昭和39(1964)年4月



46 こもかぶりで装飾した県立体育館
昭和39(1964)年4月

43・44 昭和34年春に開催された木下大サーカス。開幕前の3月25日、6頭の象が興味津々の子どもたちを引き連れて広島駅から会場となる広島城跡護国神社前広場まで約1時間かけて行進した。行進所要時間は事前に懸賞クイズにもなっており、多数の応募があったという。市制70周年記念事業でもあり、このパレードや天満屋屋上での空中自転車乗りのショーなどで開幕前から華やかに市中を盛り上げた。

45・46 2年前に開館した広島県立体育館で開催された大相撲広島準本場所。入り口には酒のこもかぶりが積み上げられている。広島入りする力士たちを一目見ようと広島駅には大勢のファンが詰めかけ、初日前日には大鵬や柏戸など人気力士が市中をパレードした。



47 楽々園 海水浴場★
昭和33 (1958) 年



48 楽々園へ向かう人々
昭和33 (1958) 年



49 楽々園 菊人形展★
昭和30 (1955) 年 10月



50 楽々園 菊人形
昭和39 (1964) 年 11月



51 楽々園 菊人形の花電車★
昭和31 (1956) 年 10月



52 楽々園 遊園地★
昭和34 (1959) 年頃



53 楽々園 パラダイスプール★
昭和39 (1964) 年 8月



54 福屋屋上遊園地
昭和38 (1963) 年頃



55 広島遊園地★
昭和34 (1959) 年 7月



56 広島遊園地★
昭和34 (1959) 年 7月



57 広島バスセンター★
昭和32 (1957) 年



58 広島バスセンター★
昭和36 (1961) 年頃

4 遊園地へ行こう！

広島瓦斯電軌株式会社（現広島電鉄株式会社）により昭和11年に開業した楽々園遊園地は、海水浴場も備えた市民の手近な娯楽施設だった。

今では菊人形といっても、どのようなものか想像つかない人も多いかもしれないが、花電車や宮島線の各駅、広島市内各所で大きく宣伝されるほど、秋には定番の催しだった。30年代には、観覧車やジェットコースター、ウォーターシュート、プラネタリウムなどが整備され、年間約60万人の入園者を記録した。埋め立てにより海水浴場が閉鎖されてからは次第に来場者が減少。46年に閉園したが、その名は現在も地名や宮島線の駅名として残っている。

デパートの屋上遊園地は、子どもたちにとって買い物のお出掛けついでのお楽しみだった。

54 福屋屋上遊園地。右奥には天満屋屋上の観覧車も見える。

55・56 南区本浦町（現半べえ庭園）にあった広島遊園地は、つつじの名所として知られ、1日に2万人もの人出でにぎわうこともあった。小さな子ども向け遊具もあり、市内の手近な行楽地として家族連れのにぎやかな場だった。

5 進む車社会化

広島市の人口増加とともにバスの路線も増え、昭和30年代に入るところには、利用者数は電車を上回った。路線バスの保有台数の増加に加え、郊外バスや観光バスも増えていった。しかし、路線バス会社ごとに発着所が異なっており、利用者にとって不便だったことから、バスセンターが設立されることになった。32年7月、基町にバスセンターが開業し、10社の郊外バスが乗り入れ、当初1日680台余りがここを出発したという。

59・60 バスセンターの落成式は、市民球場完工式の翌日行われた。飾り付けから、



59 広島バスセンター★
昭和32 (1957) 年 7 月



60 広島バスセンター★
昭和32 (1957) 年 7 月



61 東洋工業生産累計 100 万台記念★
昭和38 (1963) 年 3 月 9 日



62 広島市民球場で新車発表会★
昭和37 (1962) 年 3 月



63 平和記念公園で自動車ショー★
昭和38 (1963) 年 11 月



64 平和大通り
昭和39 (1964) 年 2 月

開業間もない時期と思われる。

61 戦後、三輪トラックを軸に再出発した東洋工業は、四輪トラック、乗用車へと生産を展開していく。昭和35年のR360クーペで乗用車部門に進出すると、キャロル、ファミリアなど次々と発売し、38年3月9日生産累計100万台を突破した。コンベヤーラインから滑り出した記念すべき100万台目、金色に塗装されたキャロル600は、従業員らが見守る中シャンパンファイトで迎えられ、ブラスバンドの演奏に合わせて社内をパレードした。100万台のうち、後半の50万台はわずか2年2カ月で達成されたといい、この時期いかに急速に「車社会化」が進んだかが分かる。

64 最初の平和大通りの写真と比べると、道路が整備され街路樹も植えられている。今と比べれば少ないが、車の交通量も増えているのが分かる。この翌年、鶴見橋東詰から新己斐橋西詰まで約4kmが全通する。

～・～ 当時の交通事情 ～・～



65 八丁堀交差点
昭和31 (1956) 年



66 紙屋町交差点
昭和38 (1963) 年



67 ノークラクション運動
昭和33 (1958) 年 7 月



68 交通安全週間の呼び掛け
昭和34 (1959) 年

昭和30年前後から都市計画により道路が拡張され舗装工事が進められてくると、自動車の数が増えるだけでなく、交通事故の危険やクラクションの騒音が問題になった。広島市で最初に信号機が設置されたのは29年5月の紙屋町交差点。65を見ると、大きな交差点でも歩行者優先の表示が掲げられ横断歩道は縦に点線が引かれているものの、はっきりとはわからず、停車している車のすぐ真横を人が渡っている。35年に横断歩道表示が法律化された後の66でも同様の状態なのが見える。

67 実態調査の結果、70%は鳴らす必要のないクラクションであるとして、車の追い越しや歩行者に注意する際にはクラクションを鳴

らさないように呼びかけたノークラクション運動。トラックの荷台にベビーカーを押した女性が乗り、「坊やがめをさますから静かに」と書かれている。歩行者にも右側通行や横断歩道の渡り方について自覚を求めた。後ろのビルにも「警笛やめて静かな町に」と書かれた垂れ幕が掛かっており、市を挙げての取り組みだったことが分かる。こうして、車社会化に対応するべく交通ルールも次第に整備されていった。

みづま工房略年譜

- 1945 広告代理業「みづま工房」創業
- 1946 「のど自慢コンクール」開催
この大成功が会社設立につながる
- 1948 株式会社みづま工房設立
- 1956 広島復興大博覧会 企画・デザイン
- 1957 広島市民球場開場 オープニング装飾企画・デザイン
- 1964 季刊誌「ひろしまの観光」創刊
- 1968 月刊誌「る・もんど」創刊
- 1975 カープ優勝パレード 企画・運営・実施
- 1977 広島フラワーフェスティバル企画・運営
- 1989 海と島の博覧会 テーマ館 B 施工
- 1994 第12回アジア競技大会広島 聖火リレー、トーチ、各競技表彰セレモニー等企画・デザイン・施工・運営
- 2009 マツダスタジアム開場 サイン、ディスプレイ、グッズ等企画・制作
- 2022 紙屋町シャレオ シャッターアートミュージアム制作



69 広島復興大博覧会設営作業
昭和 33 (1958) 年



70 大型回転式ネオンサイン制作作業★
昭和 33 (1958) 年

※この解説リーフレットの著作権は広島市公文書館に帰属します。

掲載写真はすべて、みづま工房写真コレクションから。

★がついているものは会場で展示した写真です。

ここに掲載した写真は、広島市公文書館デジタルアーカイブ・システムで見ることができます。



〈参考文献〉

- 『被爆40年史 都市の復興』広島市企画調整局文化担当 1985
- 『広島市被爆70年史 あの日まで そして、あの日から 1945年8月6日』広島市 2018
- 『広島本通商店街のあゆみ』広島本通商店街振興組合 2000
- 『広島金座街商店街振興組合80周年記念誌』広島金座街商店街振興組合 2010
- 『天満屋百五十年史』株式会社天満屋 1979
- 『広島胡子神社由緒』広島胡子神社 1977
- 『増補広島市民球場の記憶』財団法人広島市文化財団広島市郷土資料館 2011
- 『広島市中央卸売市場三十年史』広島市役所 1980
- 『広島新史 行政編』広島市 1983
- 『広島スポーツ100年』金樹晴海 中国新聞社 1979
- 『五日市町誌(中巻)』五日市町誌編集委員会 1979
- 『広島電鉄開業100年・創立70年史』広島電鉄社史編纂委員会 2012
- 『1920-1970東洋工業五十年史 沿革編』東洋工業株式会社 1972
- 『広島新史 市民生活編』広島市 1983

名 称	みづま工房写真コレクション寄託記念 Part1 広告屋が見てきたもう一つの広島
発 行	広島市公文書館 広島市中区大手町四丁目1番1号 大手町平和ビル TEL (082)243-2583 広 D3-2023-411